

六甲カトリック教会報

2006.3 No.411

3月のお知らせ

		教会暦	教会行事
1	水	灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中)	7:00 10:00 19:00 ミサ (各ミサ中に灰の式)
3	金		初金 7:00 10:00 ミサと十字架の道行き
5	日	四旬節第1主日	14:00 神戸地区評議会
10	金		10:00 集会祭儀と十字架の道行き
11	土		14:30 教会学校卒業式・終業式
12	日	四旬節第2主日	春の墓参(9時ミサ後) 10:15 小教区評議会
16	木		14:00 ベタニアの集い
17	金		10:00 集会祭儀と十字架の道行き
19	日	四旬節第3主日	7:00 10:00 ミサ 11:15~信徒総会
20	月	聖ヨセフ	14:00 三日月会 ミサと例会
24	金		10:00 集会祭儀と十字架の道行き
25	土	神のお告げ	11:00 教会学校(小学2年生)の練成会
26	日	四旬節第4主日	
27	月		11:00 ベビーとママの集い
31	金		10:00 共同回心式

早春の陽ざしの中を・・・

教会の典礼は3月1日「灰の水曜日」に四旬節を迎え、私たちはミサ中に頭(こうべ)を垂れて灰をかぶりました。『あなたはちりであり、ちりに帰って行くのです』という言葉を受けて人間存在の有限なる命を確認し、或いは『回心して福音を信じなさい』という言葉聞き、へり下って神に立ち帰りたいと熱望しました。四旬節というこの40日間は復活徹夜祭に洗礼を受ける方々のための準備期間として始まったのですが、同時に神の子イエスが40日の間、荒野で誘惑を受けられたことを思い起こし、祈り・断食・愛の奉仕に励む習慣が初代教会の時から始まりました。その信仰の歩みの中で、教会共同体は洗礼志願者と共に、主キリストが十字架上の死を通して復活のいのちに過ぎ越された“救いの業”を黙想し、永遠の命に生かされ

る喜びを渴望します。私たちがいただいた信仰の恵みと力は、まさにこの渴望と悲願から出ているのです。その救いに到るまで、神様は愛する一人ひとりの人間を全人格的に鍛えて下さるのだと思います。時には優しく、時には厳しく、あたかも人間の親が子供の幸せな未来のために心を込めて鍛えるかのように・・・。

或る時、仏教の高僧が話された短い説法をラジオ番組で聞いたことがあります。「小さな虫が同じ虫仲間と共に、何不自由なく楽しく生きていた。その虫は自分たちの虫の世界に満足し、慣れ親しんでいた。他の世界があることなど考えもしなかった。ところが或る日、虫は少し遠方まで飛んで出たためか、突然大きなトンボがやってきて、パクッと食べられてしまった」

と。これだけの話ですが、いたく感動したことを覚えています。私たちは洗礼の秘跡を受けたとき、全ての罪が許され神の子供として永遠に生きる恵みをいただきました。この世界にありながら、永遠なる神に向かって歩む者となったのです。トンボに食べられるまでは自分たちの世界に閉じこもっていた、この小さな虫ではなくなりました。“永遠に救われる命”は、人間存在の究極の救いを意味しています。人間は死に向かって造られたのでも、消滅するために造られたのでもありません。生きるために、しかも“永遠に生きるために”造られたのです。ですから、その人間の救いを成し遂げて下さったイエスの愛以上に大きな愛はありません。それは神の子としての全てをゆるす愛、へり下って自分を無にする愛、他者の幸せと成長を願う愛、十字架を最後まで担う愛、自分を与え尽くす愛、見返りを求めない無償の愛だったのです。イエスは、人間の救いを望まれる神様の真実を示されたのです。

しかし、私たちは弱く罪深い人間なので、そ

の信仰が時には形だけの信仰に留まったり、生きる確信になっていなかったり、お金やモノに心を奪われたり、時には迷いや疑いを感じたり、神様のことを忘れがちになったり、挙げ句の果ては自分さえ良ければという狭量な生き方になったり・・・つまり、私たちは日々“不信仰へのいざない”を受けているのです。時には、それが“いざない”であることさえ感じないほど、今の世界は神感覚を失っているのではないのでしょうか。教会が四旬節を定めた理由は、この辺にあると思います。これからの40日間には、私たちの人生が神に向かって、永遠に向かって歩んでいることをしっかりと心に留めたいと思います。次第に物忘れが進み、電気を消し忘れて、鍵をどこかに置き忘れて日々認知症に悩む私たちでも、永遠なる神に向かって生きていることだけは忘れたくありません。人生全体がそこに向かっていくのですから・・・3月になり早春の明るい陽ざしの中、悠々と心おおらかに地上の旅を続けましょう。

「おもしろや 今年の春も 旅の空」(芭蕉)

桜井神父

各 部 会 だ よ り

👉 壮年会

3/15(水)10:00～ 男の料理教室

👉 婦人会

3月聖堂掃除当番

3日(金) 中5、東1

10日(金) 東2、東3

17日(金) 東4、東5

24日(金) 西1、西2

31日(金) 西3、西4、西5

いずれの日も午前9時からです。ご参加下さる方が減っております。私達の聖堂です。できるだけ多くの方にご協力をお願い致します。

👉 三日月会

<例会>

3月20日(月)14時から ミサと例会
典礼解説とビデオ

👉 青年会

<定例会>

3月12日(日)12:30～14:00

於：第3会議室

内容：聖書研究(指導：高山神父)

3月26日(日)12:30～14:00

於：第3会議室

内容：祈りのはこぶねを使用した分かち合い

初めの方も是非気軽に参加下さい！！

👉 社会活動部

3/3(金) 初金ミサ&十字架の道行き後～

社会活動部連絡会

目前に迫っている「共に捧げるミサ」細部打ち合わせ、役割分担の確認、信徒総会に向けての内容の詰め、今後の予定等、討議事項多数抱えております。あらゆる奉仕に関心をお持ちの方、全てが社会活動部の一員です。是非一度覗

いてみてください。

3/5(日) 11:00のミサ

障がい者デスク・フレンドリーと 共に捧げるミサ

ミサ後、イグナチオホールに於いて、交流会。

3/8(水) 10:00~手芸の集い

(於：第1, 2会議室)

トールペイントを予定しています。手仕事のお好きな方ご参加下さい。

3/11(土) 10:00~炊き出し

教会台所で準備し、用意出来次第、小野浜公園に移動致します。今回より30分遅くなっておりますのでご注意ください。多くの方のご協力をお願い致します。

3/16(木) 14:00~ベタニアの集い

聖体拝領式と茶話会 追ってご案内させていただきます。

3/24(金) 14:00~おにぎり作り

須磨方面夜回りの為に作ります。ご協力を宜しくお願い致します。

3/26(日) 9時のミサ後~

手作り&喫茶コーナー(於：イグナチオホール)

毎回好評の手作り弁当ほか食品、手芸品等の販売を致しております。是非お立ち寄り下さい。毎月第3日曜日に開いておりますが、今月は信徒総会と重なりますので、第4週とさせていただきます。ご協力をお願い致します。

3/30(木) 10:00~炊き出し

今月は変則となっており、曜日も違って2回目の当番日です。何時もの第2土曜と同じです。ご協力をお願い致します。

< 3/5(日)「共に捧げるミサ」について >

大阪大司教区シナピス傘下「障がい者デスク・フレンドリー」より、六甲教会の主日のミサに典礼奉仕も一緒にさせて頂く文字通り「共に捧げる」ミサの形で与らせて頂きたいとお申し出が有り、暫らく前より準備して参りました。第一朗読、奉納、共同祈願をフレンドリーのメンバーが担当されます。このミサでは点訳本の準備、手話通訳、要約筆記が用意されております。障害を持っておられる方をご存知の方は、「是非このミサに与られますように」と、誘ってあげて頂きたいと思っております。

ミサ後、イグナチオホールに於いて、交流会を予定致しております。こちらにも多数ご参加下さい。メンバーの方々と軽食を共にしながら、談笑のひとつを持ちたいと思っております。ゲストとして特別扱いの御もてなしをするのではなく、同じ教えを信じ、繋る者として、自然な親しい交わりを心がけたいと思っております。障害となっている部分(目、耳、口、手足など)の代わりに私達が務めるだけで、同じ場所で同じ時間を同じ仲間として共有できるのです。ハンディーをお持ちの方々に「来てよかった」と思ってもらえる様に、是非“談笑の輪”にも加わってください。メンバーの中に交わってください。

当日駐車場も、車椅子利用者の方々にご利用いただける様にご配慮下さい。出来れば、公共交通の利用や、ザビエルハウスに駐車をするなどのご協力をお願い致します。カーボランティアも募っております。車のお迎えがあれば、ミサに与る事のできる方が何人かあります。こちらにもご協力を宜しくお願い致します。

< 支援物資の御協力への御礼とお願い >

昨年末には沢山の物資をご協力くださり有難う御座いました。社会活動神戸センター・釜ヶ崎(ふるさとの家、子供の里)・大阪シナピス(難民支援)に、夫々必要とされる所に必要な物をお届けする事が出来ました。ひとえに皆様の善意によるものと感謝いたしております。遅くなりましたが、ご報告とお礼を申し上げます。今年も出来れば2回(5, 6月頃と11月頃に)支援物資の提供をお願いしたいと存じております。路上で配られているポケットティッシュ、ホテルなどの使い捨て歯ブラシや石鹸も貴重ですので、ためて置いて頂けると有難いです。支援物資依頼を出しました折にはご協力を宜しくお願い申し上げます。

📍地区会

3月の集会予定

六甲アイランド地区

日時：3月26日(日)10時30分~

場所：本下邸

内容：四旬節に入り、安芸神父様をお呼びして、ミサとお説教。

六甲カトリック教会信徒総会

日 時 : 3月19日(日) 11:15~
場 所 : 六甲教会聖堂

この日のミサは、7:00 と 10:00 の 2 回です。
変更されていますので、お気をつけ下さい。



社会活動部 学習会報告

高山神父様をお迎えして、2月12日(日)13時30分よりイグナチオホールでお話を伺う会が開かれました。神父様が5年前から関わられ、これからも見守り続けられるカンボジアについてのお話でした。参加者は約70名で、六甲教会ばかりでなく外部の方も来られたようです。

神父様のお話で私が一番心に残ったのは「なぜ自分がここにいるのかわからない。」という言葉です。私は今まで自分がなぜここに居るかわからないと考えたことがなかったからです。今ここに居るのは自分が分かれ道にきた時に、私が選択した結果であると不遜にも考えていました。自分で好きな道を選択できない状況におかれた時にベトナムに生まれて、ベトナム戦争で苦勞を色々と重ね、その戦争後にベトナムがカンボジアに侵攻し、そのために弟さん二人に徴兵の命令がきた時に、近所の老婦人がお金を援助してくれて、ベトナムを脱出するための船を作って祖国を脱出し、ノルウェー船に助けられ、招かれざる客として日本に来て10年間いろいろの職業についてたけれども、イエズス会に入り各地を回り、そして祖国ベトナムの隣国のカンボジアのために日本人としてこれから本格的に働かれる。自分に与えられた使命、神様の手を感じると言われました。あの老婦人がいなかったら、自分の命はなかっただろう。ノルウェーの船が通りかからなかったら・・・と。神父様のこれからの道がなだらかなものには思えませんが、神様が導かれた道ですから、と平和ボケした日本人の典型である私は祈るばかりです。

カンボジアという国もまた、近世、苦しく激しい道をたどったのですが、国民性は穏やかで、品性の豊かなものだそうです。貧富の差がはげしく、特に農村部は教育・医療すべての面で恵まれていないのですが、草の根運動でその地の必要に応じた支えを続けると、行かれる度に変わっていくのが目に見えて、とてもうれしいとおっしゃっていました。展示されていた、子ども達が清らかな美しい目で見つめてこちらをみている写真は日本の子ども達が失った何かをその目の奥に見るようで、心を打ちました。
(久本順子)

~~~~~

高山神父様の『カンボジアの今を通して!』を聞いて

高山神父様のお話を聞いて、神父様のお人柄と深い洞察力に感銘を受けました。これは、すべてを神様のみ摂理として受け入れてこられたこと、イエズス会の会員養成から受けた識別力のためだと思います。

一般にカンボジアについての情報と言えれば四半世紀以上も前のポルポト派の残虐行為とその後の自衛隊のPKO活動ぐらいです。そのような私どもにとって、神父様のお話はカンボジアの現在だけでなく、いわゆるボランティア活動の在り方も教えてくれました。

私達の信仰、つまり生活には、マリア型(観想)とマルタ型(活動)の双方が必要であることは周

知の通りです。今日はマルタ型が強調されている感がありますが、それには深い賢明さが必要であることを教えていただきました。

たとえば、ODAのような上からの支援ではなく、草の根の支援が、将来を見据えた支援が必要であるということです。それには、マルタ型とマリア型が統合されなければならないこと、それに情報の理解力と実行しようとする意思、心の主体的な憧れを一つにしなければならないことを学びました。

貧しさが個人的なものだけではなく、構造的なものであること、正義と抑圧の防止が求められていること、キリストが貧しい人びとの味方であったからこそ、貧困ではなく、清貧が必要であることを、考えさせられました。  
(木鎌安雄・歌子)

## 難民支援グループ「ルチア」報告

### 署名の御礼と報告

1月22日、2月5日の両日に行いました署名活動には、多くの方のご協力を頂きましたことに、心より御礼申し上げます。「ハンセン病療養所の胎児標本の取り扱いについての要望書」には140名の方の、又、「ギアさんの再来日を求める」署名には172名の方が署名くださいました。一人一人の力は小さくても、多くの方の力を寄せ集めれば、暗闇に置かれた人に光が見えてくるのです。希望の道が開かれてくるのです。これからもご協力をよろしくお願い致します。

「ベトナム難民 チュエンさん 退去命令後に 在留許可！」

チュエンさんに在特 おめでとう

2月7日ベトナム難民のチュエンさんに在留特別許可ができました。私たちがルチアを立ち上げる前に2回面会した方です。これについてシナピスのビスカルド篤子さんからルチアにメールが届きました。ご本人の了解を得て一部をご紹介します。

(前略)関西ではチュエンさん、関東ではフォックさんという男性が同じ日にビザを取得しています。この二人に共通するのは、子どもをたくさん抱えつつましい生活をしていること、本人に高い更生能力があること、日本人支援者が関わること の三点です。

(中略)先の見えない人ばかりとつきあう私たちにとってはファイルを閉じることができるなんてこの上ない喜びです。それと寒空の中、ギアさんの署名を集めてくださりありがとうございます。こちらから4月を目処に署名とともに在留資格認定申請を行う準備を進めています。(後略)

(長瀬三千子)

### なぜ、神様は人間をお作りになったのでしょうか

「神は、無限に完全、他によることのない至福そのものであって、ただいつくしみによる計画から、ご自分の至福ないのちにあずからせる人間を自由に創造されました」。これは「カトリック教会のカテキズム」の冒頭に出てくる文章です。神様は「人間を、ご自分の至福ないのちにあずからせるために作ってくださった」。信徒としては当然知っていただければならないことですが、つい忘れていました。この文章を読んで、思わず居住まいを正された思いがしました。

「カトリック教会のカテキズムを読む会」は、毎月第一日曜の9時のミサ後、開催しています。文字通り皆さんで読んでいます。ご都合がついたときに、お気軽に、ご参加ください。  
(桐原)

## 司祭団人事 と 司祭の担当窓口について

主任司祭より

1) 新年度4月からの人事異動として、協力司祭・高山神父が釜ヶ崎「旅路の里」の仕事とベトナム人神学生の養成などに力を入れるため、住居を八尾教会（大阪府八尾市）に移し、六甲教会の仕事から離れることになりました。この2年間持ち前の強い信仰をもって、特に子供や若者のために奉仕して下さった大きな働きに皆様と一緒に感謝したいと思います。貧しい人々や日本で生きるベトナムの人々の世話を献身される同神父の働きを慈しみ深い神様が祝福して下さいますように祈りましょう。

2) 教会司祭団は4名に減少しますが、若い心の持ち主ばかりです。皆様と一緒に神様と人々に奉仕したいと希望しています。安芸神父とオマリー神父のお二人は協力司祭として、時には他教会の手助けと黙想指導や巡礼などにお出かけになることがあります。そして今年度オマリー神父は夏の終わり頃約2ヶ月アメリカで療養される予定です。尚、お二人の住居はザビエル・ハウスですから、ご連絡は下記にお願い致します。

〒657 0068 神戸市灘区篠原北町1 8 25 ザビエル・ハウス

Tel: 078 801 0616 Fax: 078 801 0629

尚、バレンタイン神父（助任）と桜井神父（主任）は今まで通り、教会3階に居住しています。

3) さて、諸般の事情を考慮し司祭団と小教区評議会で話し合った結果、各司祭が担当窓口を持つことが望ましいと考え、これからの1年間は次のように決めました。但し、担当司祭がすべてを必ず自分で行うというのではなく、例えば担当司祭の都合が悪い場合などは他の司祭や信徒に協力を依頼することができる方法です。また、信徒の主体的な働きに対して、相談窓口という場合もあると思います。

**安芸神父** 三日月会のミサと例会、ベタニアの集い、病者・高齢者の状況把握

**オマリー神父** 典礼部（聖体奉仕者を含む）、中高生会（リーダー養成や父兄との係わり含む）、第2、第4主日の英語ミサ（於神戸中央教会）

**バレンタイン神父** 青年会（分かち合い、体験学習含む）、結婚式（結婚準備セミナー含む）、地区会（世話人会含む）、平日朝ミサの担当配分、神戸市民クリスマス

**桜井神父** 教会学校（リーダー会、父兄との係わり含む）、広報部、教会財政（教区関係含む）、葬儀・墓地委員会、主日などのミサ担当配分、集会祭儀司式者とその実践、海星病院（新チャペルの契約と運営を含む）、東ブロック会合

これからは、信徒の役割と責任がさらに大切になってくる時代です。その意味でも、記載されていない信徒会や専門部会は、従来通り担当司祭がいなくても（或いは、いない方が？）充分自分たちで活動しかつ発展して行くことができると考えられますので、大いに期待しています。そして上記以外にも、信徒の方々が自ら奉仕して下さっている信仰入門講座、ベビーとママ、教会全体の維持管理、家庭集会などなど数え切れない多くの宣教司牧活動と一緒に応援しましょう。神の栄光のために、人々の救いのために奉仕することが、こんなにも大きな喜びであることを感謝したいと思います。

## 一人の信徒としてできることは

評議会副議長 河野光成

先日のテレビで、ある人が「幸せって、将来に不安のない状態をいうのだと思います。」と語っておられました。災害にあわれた人、病苦に苦しんでおられる方など、その思いもひとそれぞれでしょうが、幸せを願わないひとはおられないでしょう。

キリスト者にとっての幸せはといわれると、私は、聖書の「わたしの言葉に従って生きているなら、あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」という言葉思い出します。しかし、日常は、多くのしがらみや強欲、快樂への誘惑などにとりつかれていて、聖書にある「自由」には程遠いのが現実です。

信者の友人がふともりました。「信仰って何もしなければはげしい競争社会の中ですりへってしまうのではないだろうか。」と。私自身も受洗以来、一体何を求め、何をしてきたのだろうかと思ひ返しています。

池長大司教がカトリック時報に書いておられましたが、10年後には、司祭の数が半分になるそうです。さしあたっては、信者による聖体奉仕、集会祭儀の問題があります。われわれ信徒は、将来を見据えて、いま一度、信仰について、教会について、問い直すときではないでしょうか。

与えられたタレントはひとそれぞれであり、一人の信徒として自分にできることは何かをよりポジティブに考え、自分自身を生かせる場所を見つけることが自身の幸せにもつながるのではないかと思います。

### フランシスコ・ザビエル生誕500年記念 ザビエルの足跡を訪ねての旅

1班 2006年4月6日(木)～4月7日(金) < 1泊2日 >  
(山口ザビエル記念堂、内藤興盛の墓、等観光 / 山口ザビエル聖堂でミサ)

2班 2006年4月5日(水)～4月7日(金) < 2泊3日 >  
(鹿児島・ザビエル上陸記念碑、津久見・大友宗麟公墓地公園、等観光 / 鹿児島・ザビエル教会、山口ザビエル聖堂でミサ)

申込締切日 2006年3月6日(月)

申込み・問合せ先 阪急交通社 TEL . 06-6361-4702 担当: 片岡・原  
(詳しくはしおりを参照下さい)

#### 巡礼への勧めの言葉

この一年は六甲教会の母体でもある「イエズス会」の“記念の年”を迎えています。まず4月7日は聖フランシスコ・ザビエルの生誕500年の記念日に当たります。ご存知のように、ザビエルは、〔神は呼ぶ、はるかな東洋に・・・〕長い船旅の末に、初めて日本に神の愛を携え、キリストの福音を伝えに来て下さった日本の教会の恩人でもあり、保護者でもあります。

この聖人の愛に満ちた宣教の足跡を訪ね、イエズス会の山口ザビエル教会で同教会の方々とミサを捧げ、交わりを持つ予定です。この巡礼が私たちの信仰を深める機会になればと願っています。

桜井彦孝神父

『母の遺言』

桜井彦孝著  
女子パウロ会刊

待望の桜井神父の著書、『母の遺言』が、パウロ書店より出版されました。日頃、教会報などにお書きになったものを中心にまとめられたとの事ですが、こうして一冊の本として拝読すると、新鮮で改めて心に響くものでした。

薄いブルーを基調に陵麗なタッチで描かれている表紙を開くと、内容は決してホーリィ、ホーリィ一点ばりの固苦しいものではなく、母上の言われた「本物になりなさい」の言葉を、心に刻んで今日まで歩いて来られた、神父のお人となりがよく分かります。

どの章も行きつく先は、全ての人を救われる神の愛ですが、そこへのアプローチの切り口は柔く、多岐にわたっています。例の黄門さんに寅さん、松尾芭蕉や虚子の句があるかと思えば、ユーモラスな川柳もあり、遠藤周作氏に良寛さんにと、枚挙にいとまがありません。中でも抜き出してカードに書いて誰かに送りたくなるような、マーガレット・F・パワーズの「あしあと」、そしてホイヴェルス神父の「人生の秋」の美しい詩も挿入されています。この本を通して、神様の事を知らない人が、一人でも多く教会に足を運んでほしいとの著者の願いが拝察されます。福音を述べ伝える司祭の道を、ある時は演歌に涙し、ある時は童謡を口ずさみながら、星空を眺めて、ひたすら邁進されている神父を天国で見守っておられるお母様は、きっとこの事をお喜びになっているでしょう。（金子淳子）

この本はキリスト教系の書店だけではなく、ブックファースト  
(阪急六甲駅)やジュンク堂(三宮)などでも購入可能です。

|                                                                                                                                                                      |                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教会報月4号の発行は、4月2日(日)です。<br>編集会議は3月26日(日)です。<br>記事原稿は、3月19日(日)正午までに信徒会館事務室<br>へご提出願います。(広報部)<br><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a> | <b>六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会</b><br>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21<br>電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6<br>発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父<br>編 集 広 報 部 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|